

瀬戸内におけるポンカンの水管理

ポンカンは瀬戸内気候のもとでは、開花期が遅く、南予地方と比べて発育ステージもそれだけ遅くなる。しかも夏季干ばつの影響を受けると、果実肥大が劣り、酸高になりやすい。

そこで、平成7年度に6月20日から11月15日までの期間を3区分し、時期別に地面に不織布を敷き、雨水の浸透を遮断して乾かし、いずれの時期に乾燥の影響が大きいのか、適宜かん水して湿潤にしたものと、果実肥大や品質について比較した。その結果は次のとおりである。

(1) 6月下旬から7月末までの早い時期の乾燥は、7月20日時点で果実肥大が少し劣った

が、8月からのかん水で回復し、この時期の乾燥の影響は小さいようである。

(2) 8月から9月中旬までの乾燥は、その影響が最も強く、肥大停止期間が長くなり、その後の回復も緩慢で、収穫果は小玉の割合が著しく高い。また、酸含量はきわめて高いレベルであり減酸が遅い。

(3) 9月中旬から11月中旬の乾燥も肥大が劣っている。全期間湿潤に比べて収穫期の着色がやや早く、糖度の高い傾向がみられる。しかし、酸含量は8月から9月中旬の乾燥に次いで高い。

(4) なお、平成3～4年度に8～9月の間、10日間断3～6mmの簡単なかん水試験を行い、

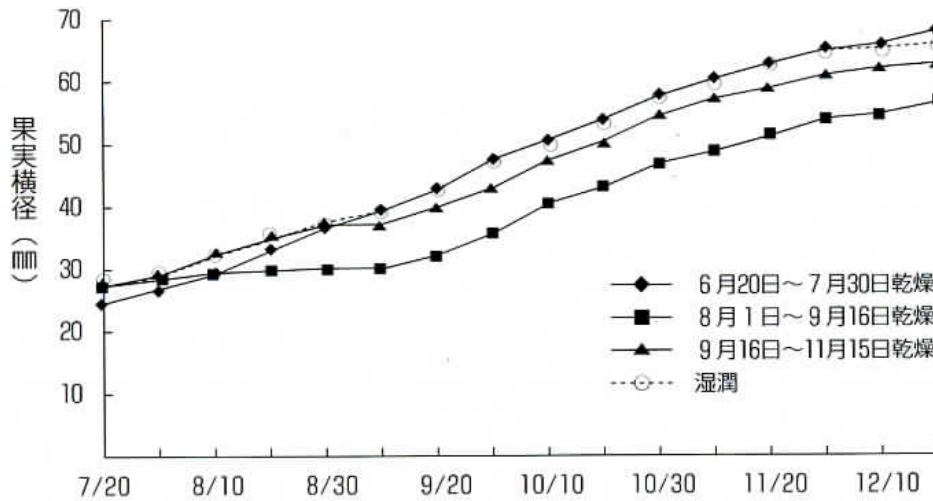


図1 水分ストレスの時期と果実肥大

この時期のかん水が糖度には明らかな差はないものの、酸含量が下がることを認めている。

瀬戸内におけるポンカンは早めに摘果して果実肥大促進を図るとともに、水分不足で果実肥大が劣ることのないよう十分な水管理を行う必要がある。

(岩城分場：
分場長 脇 義富)

表1 水分ストレスの時期と果実品質の推移

試験区	Brix					クエン酸 (g/100ml)					着色歩合 (0~10)
	10/20	11/10	11/30	12/20	1/10	10/20	11/10	11/30	12/20	1/10	
6月20日～7月30日乾燥	10.0	10.8	11.0	11.9	13.3	4.37	2.67	1.83	1.53	1.45	5.0
8月1日～9月16日乾燥	11.0	10.6	11.5	12.3	14.4	5.24	2.78	2.27	1.98	2.02	4.7
9月16日～11月15日乾燥	10.9	11.0	12.3	13.1	14.5	4.65	2.55	2.14	1.84	1.59	7.3
湿潤	10.1	10.5	11.1	12.1	13.6	4.26	2.35	1.65	1.41	1.26	6.3

注) 着色歩合 12月20日調査